

産業と文化の新たな発信基地「羽田イノベーションシティ」

京浜急行および東京モノレール各線の天空橋駅に直結する東京都大田区の新たな複合施設「HANEDA INNOVATION CITY（羽田イノベーションシティ、略称：HICity）」。2020年7月3日に先行オープンした。

新型コロナウイルスの影響で、まだすべての入居施設は開業していないが、9月18日に本格稼働を開始し、オフィスや一部レストランなど共用空間が徐々に利用できるようになってきた。グランドオープンは2022年の予定だ。今回はその施設の模様をレポートしたい。



天空橋駅直結の新たな施設「HANEDA INNOVATION CITY」

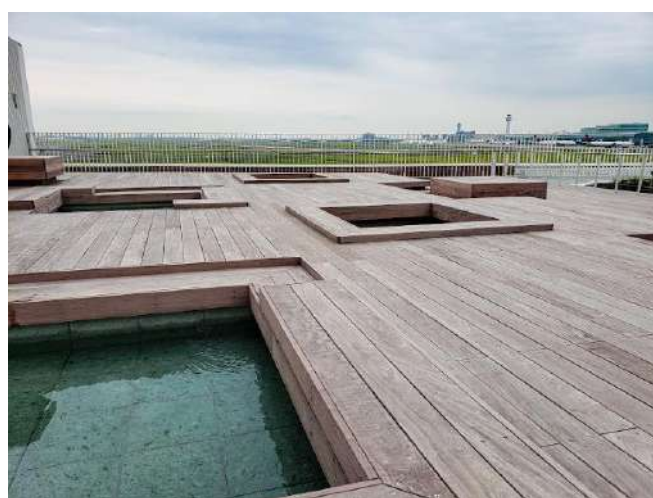
先端産業と文化産業をクロスする大規模施設

HICityは、鹿島建設など9社が出資する羽田みらい開発（大田区）が整備したものである。「先端産業」と「文化産業」を中心とした地上11階・地下1階の複合施設で、敷地面積は約5.9ヘクタール、延床面積が約13万1000平方メートルというスケールの施設である。

先端産業分野としては、入居企業のデンソーが自動運転技術を開発・実証する「先端モビリティセンター」と、大田区が提供する「区施策活用スペース」が先行オープン。このほか

水素ステーションも備え、先端モビリティや健康医療、ロボティクスなどを研究する開発拠点もあり、BOLDLY が手掛ける自律走行バスや WHILL の自動運転車いす「WHILL 自動運転システム」の試乗や掃除ロボットのデモなども実施されてきた。

文化産業分野では、ライブホール「Zepp Haneda」と、日本食や伝統工芸などが体験できる「文化体験商業施設」、日本空港ビルデングが提供する、最新のテクノロジーで日本文化を体験できる「体験型商業施設」、遊具を配置した芝生広場「ARTIST VILLAGE」、「足湯スカイデッキ」などがある。足湯スカイデッキは、5:30～23:30 までオープンしており、離着陸する航空機を眺めながら足湯を楽しむことができるというユニークさだ。



航空機を眺めながら楽しめる足湯スカイデッキ

また、日本初となる戦闘機のフライトシミュレーターの体験ができる、フライトシミュレーター体験施設「LUXURY FLIGHT」もある。



戦闘機のフライトシミュレーターの体験ができる「LUXURY FLIGHT」

特筆すべきは日本で絶大な人気を誇るロックユニット「B'z」が、2020年10月31日より毎週土曜日11月28日まで5回にわたって、ユニット初の無観客配信ライブ『B'z SHOWCASE 2020 -5 ERAS 8820- Day1~5』を「Zepp Haneda」で開催し、注目を集めたことだろう。HICityの様々な場所にその宣材物が設置されている。





ロックユニット「B' z」の無観客配信ライブを「Zepp Haneda」で開催。

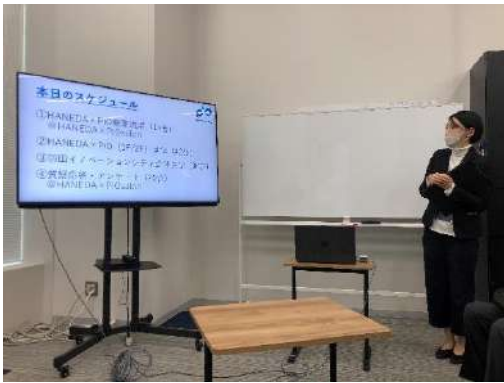
「HANEDA×PiO 視察・ツアー」に参加して

今回、筆者は2020年11月25日に大田区異業種交流グループ連絡会（4グループ 約60社）としてグループのメンバー8名と「HANEDA×PiO 視察・ツアー」に参加した。もちろんツアーに申し込まなくても、HICityは自由に入出りできるため、筆者もオープン時の7月から度々訪れていた。しかし特に大田区の取り組みなどを具体的に知りたい場合はその概要を聞くことができ、テナントゾーンなど、普段オープンにされていないところが見学できるというメリットがある。この視察・ツアーは月数回開催されていて、ホームページから申し込みができる。ご興味のある方はぜひチェックして頂きたい。

（注：HANEDA×PiO 視察・ツアーは2020年12月で一旦終了を予定している。視察対応<https://www.hanedapio.net/inspection/>）

まず最初に「HANEDA×PiO」というキーワードについて説明したい。「HANEDA」はもちろん羽田という空港拠点がある空の玄関口という立地を指す。「PiO」はPlatform for Innovation in Ota Cityの略語であり、要は2つのファクターを掛け合わせ、多様な人々の交流によって共創を生み、世界と大田区をつなぐハブとしてオープンイノベーションを促進する、という意味が込められている。

現地で説明をしてくれた公益財団法人大田区産業振興協会の羽田拠点室の職員の話によると、「HANEDA×PiO」はものづくりを中心とした大田区の産業振興に資することで、産業面からの地域振興に寄与し、①多様な主体による交流、連携機会、②持続可能な社会への課題解決、③挑戦や学びの機会という3つの視点を念頭に事業展開を行うことを目的としているという。



(公財) 大田区産業振興協会の羽田拠点室の職員から大田区の産業振興についての説明を受ける。

そして実際に1・2階(約4,000㎡)にあるテナントゾーン(約2,500㎡)、交流空間ゾーン(約1,100㎡)、共用ゾーン(約100㎡)、事務ゾーン(約200㎡)を見学した。テナントゾーンは鉄骨造で内装・レイアウトは自由に出来、月額賃料は6,500円/㎡(税抜き・共益費込)である。契約年数は2年~5年だが、延長は可能である。テナントゾーンはかなり重厚な造りであり、たいして交流空間ゾーンは光が降り注ぐ明るいスペースだった。



テナントゾーンの2室を見学。

参加した大田区異業種交流グループ連絡会のメンバーからは、耐震構造やセキュリティ、電力などについての質問が飛んだが、すべての基準をクリアしており、操業環境には全く問題がないようだ。

その後、足湯、ブックレストラン、フライトシミュレーター体験施設、大田区お土産100選展示場、大田区観光協会の紹介ビデオコーナー、ティーラウンジなどを回った。



「HANEDA x PiO 視察・ツアー」に参加した大田区異業種交流グループ連絡会のメンバーと。前列中央が会長の白鳥裕明氏（株式会社ケイエス）。左隣が筆者。

2022年のHICity グランドオープンを迎える頃には、世界はどのような様相になっているだろうか。新型コロナウイルスの話題で終始した感がある2020年。2022年には世界各国から、多様な人達との交流によってイノベーションがこの施設から創発され、世界へ羽ばたくことを願ってやまない。

参考資料：

羽田イノベーションシティ

<https://haneda-innovation-city.com/>

HANEDA x PiO

<https://www.hanedapio.net/>

空港の隣に新たな複合施設「羽田イノベーションシティ」 (MX テレビ)

<https://www.youtube.com/watch?v=Wd0GbUkWYao>

「羽田イノベーションシティ」本格稼働 空港隣接の先端・文化拠点 (KYODO NEWS)

<https://www.youtube.com/watch?v=ZyryxLWJKSZ0>

著者プロフィール：



奥山 睦 (Mutsumi Okuyama)

株式会社ウイル 代表取締役

静岡大学大学院総合科学技術研究科客員教授

情報経営イノベーション専門職大学客員教授

日本女子大学家政経済学科非常勤講師

著書に『下町ボブスレー』、『「折れない」中小企業の作り方』、『職人の作り方』、『メイド・イン・大田区』など多数。

日本全国の町工場へのフィールドワークをもとに、中小企業研究を行っている。

<https://www.officewill.co.jp>